



各部門審査委員長 講評および、審査委員一覧

【フィルム部門 審査委員 15名】 (敬称略、五十音順)

■審査委員長

多田 琢 TUGBOAT/クリエイティブディレクター、CM プランナー

<審査委員長 講評>

審査をするにあたって、自分の役割として最も重要なのは審査委員の選定であろう。ほぼこれが全てとも言える。アイデア溢れる表現を真摯に追求していることを基準に、特に今年は現場に近い若いディレクターに多く参加してもらった。さらに1年ごとに審査委員の顔ぶれを新しくする。様々なクリエイターによって、より多くの異なる視点を審査に吹き込んでもらいたいという思いからである。

まずファイナリストは例年よりかなり多くした。「落とすべきでないもの」をできる限り残すことが目的である。新しい何かがあるかもしれない、という可能性を救うために。グランプリ選考については、今年は上位20本くらいに絞られたタイミングで「グランプリを先に決める」という方法をとってみた。審査委員それぞれが「これが今年のグランプリである」という1本を明確にして欲しいと思ったからである。その上で時間をかけて議論することにした。

Bカテゴリーは圧倒的な差で選出された。10秒のシリーズはむしろテレビCM向きではないかという見方もあったが、僕はそうは思わない。WebCMはデータ上、興味を感じなければ6秒程で離脱する傾向にあるという。逆に捉えれば頭の6秒で引き込まれれば、長くても見続けてしまうということでもある。それを利用してパンチのある10秒動画の連打というのはWebCMの弱点を逆手に取った見事なアイデアであると賞賛したい。

Aカテゴリーのグランプリ審査は紛糾した。長時間議論した上でも票は真っ2つに割れた。「ACCのグランプリは数が増えて、どれが一番なのかよくわからない」と言っていた自分が、グランプリを2つ出すことに後悔がないかと言われれば嘘になる。しかし、テクノロジーが進化し、新しいフォーマットが増え、データ分析が当たり前となり、刺激的なことに不寛容な世の中でCMをヒットさせるという難しいミッションを解決するには、アイデアこそ最良の方法であるということを示すためにも、2本をグランプリとすることに決めた。

今思うと、山内ケンジ監督と関西堀井組のDNAの受賞だったのではないかと、思う。CM界の宝である2つ潮流が、依然として世の中にワークするということは、ここにCMの本質があるということなのかもしれない。

審査を終えたら心地よい満足感があるものかと思っていたが、審査委員長としての能力の低さには後悔しかない。ただ、審査委員全員が長時間、広告の未来のために本気で審査してくれた。その熱意には心を打たれた。



■審査委員

井村 光明	博報堂／第三クリエイティブ局 クリエイティブディレクター
えぐち りか	電通／アートディレクター、アーティスト
榎本 卓朗	ENOAD／クリエイティブディレクター、アートディレクター
小国 士朗	小国士朗事務所 代表取締役・プロデューサー／注文をまちがえる料理店 常務理事
権八 成裕	ゴンパ／CM プランナー、クリエイティブディレクター
佐々木 宏	連／クリエイティブディレクター 兼 世話役
佐藤 雄介	電通／クリエイティブディレクター、CM プランナー
佐藤 涉	TYO SPARK／ディレクター、プランナー
澤本 嘉光	電通／シニア・プライム・エグゼクティブ・プロフェッショナル、 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター
関根 光才	GLASSLOFT／NION 共同設立者／ディレクター
田中 裕介	CAVIAR／映像ディレクター
長久 允	映画監督
野木 亜紀子	脚本家
山崎 隆明	Watson-Crick／クリエイティブディレクター、CM プランナー

【ラジオ&オーディオ広告部門 審査委員 14名】

(敬称略、五十音順)

■審査委員長

嶋 浩一郎 博報堂 執行役員 兼 博報堂ケトル代表取締役社長 クリエイティブディレクター

<審査委員長 講評>

まず、お伝えしておきたい事がラジオ CM 制作に関わる若手クリエイター（アンダー29）の層がかなり厚くなって来た事。アンダー29 カテゴリーの開設当時は、ラジオ CM はあらゆるコミュニケーションの基礎的な要素を含むのに、若手があまりラジオの仕事に関わっていなかったし、作品も荒削りのものが多かった。ここ2年ほどファイナリスト以上に多くのアンダー29作品が選ばれるようになった。つまり、作品数も、質も着実に向上してきているという事だ。

そして、今年のグランプリ。数々の名作シリーズを生み出してきた大日本除虫菊が新たな進化をとげている。ゼロスクラッチでCMの新しい文脈を作り続ける姿勢には審査委員一同驚いた。

最後に、今年は昨今のメディア環境の変化に対応し、音声コンテンツによる企業コミュニケーションを評価するBカテゴリーを開設した。店内放送・機内音楽・遊園地の環境音から全く新しい聴力試験まで音の持つ可能性を感じる作品群と巡り会う事ができた。

■審査委員

- 秋吉 健太 ヤフー/Yahoo!ライフマガジン 編集長
 井村 光明 博報堂/第三クリエイティブ局 クリエイティブディレクター
 宇賀 なつみ aestas/フリーアナウンサー
 小宮山 雄飛 GENIUS AT WORK 代表取締役/ホフディラン/
 渋谷区観光大使・クリエイティブアンバサダー
 澤本 嘉光 電通/シニア・プライム・エグゼクティブ・プロフェッショナル、
 エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター
 東畑 幸多 電通/エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター、CMプランナー
 西田 善太 マガジンハウス/BRUTUS 編集長
 橋本 吉史 TBS ラジオ/プロデューサー
 秀島 史香 FM BIRD/ラジオ DJ、ナレーター
 福本 ゆみ 福本ゆみ事務所/コピーライター、クリエーティブディレクター/俳人
 細田 高広 TBWA\HAKUHODO/Executive Creative Director
 三井 明子 ADK クリエイティブ・ワン/コピーライター、クリエイティブディレクター
 吉田 尚記 ニッポン放送/ビジネス開発センター ネクストビジネス戦略部 副部長

【マーケティング・エフェクティブネス部門 審査委員 13名】

(敬称略、五十音順)

■審査委員長

小和田 みどり ライオン／コミュニケーションデザイン部 部長

<審査委員長 講評>

最終審査会に進出されたプレゼンターの方皆さん、ありがとうございました。
やはり書面だけでは伝わらない熱量や、SNSを全部チェックしたという泥臭さ、苦勞の汗と涙と
いった事を直接感じる事ができ、プレゼンテーション審査のよさを再確認できました。

一方どのプレゼンテーションも素晴らしく、審査は本当に大変でした。2次審査のときも、何
度も議論となりましたが、もう一度「マーケティング・エフェクティブネスとは何だ」という議論と
なりました。単に業績や認知といったものを伸ばしたという結果だけでなく、着眼点・発想力・
キメ細かい仕掛け、新しさ等様々な手法とともにすぐれたクリエイティブを創出し施策を実施した
もの、という視点で選考いたしました。

そしてグランプリを受賞された「注文をまちがえる料理店」。本当におめでとうございます。
どの作品も素晴らしい中で、特にグランプリになった要因としましては、ソーシャルグッドだった
からではありません。現在、SNSを含めちょっとした間違いやうっかりした発言も許さず炎上し
てしまうというような社会の中で、寛容な空気をつくるといった素晴らしいクリエイティブによ
り、認知症になっても諦める事なく働くことができるといった変革がおこせたこと、またそれが
日本の中でこれからも広がる事が期待できるという点で高く評価をしました。AI時代に人だから
こそできるマーケティング、今後の一層の拡がりに期待しております。おめでとうございます。

■審査委員

上野 隆信 大塚製薬／ニュートラシューティカルズ事業部 宣伝部 課長
内山 健司 マンダム／執行役員 商品企画部・コミュニケーションデザイン部・
第一マーケティング部・海外マーケティング室担当
奥野 圭亮 電通／クリエイティブ・ディレクター
佐々木 亜悠 電通／クリエイティブ・プランナー
白井 明子 ローソン／プロモーション部 シニアマネジャー
鈴木 あき子 サントリーコミュニケーションズ／宣伝部長
高田 伸敏 東急エージェンシー／
クリエイティブ局局长 エグゼクティブクリエイティブディレクター
辻 毅 ADK クリエイティブ・ワン／
クリエイティブ本部 第1クリエイティブ・プランニング局 局長
二木 久乃 博報堂／ストラテジックプランニング 部長
藤原 かおり カルビー／執行役員 中国フルグラ プロジェクトリーダー
松井 美樹 博報堂／クリエイティブ戦略局 局長、Executive Creative Director
山口 有希子 パナソニック コネクティッドソリューションズ社／常務、
エンタープライズマーケティング本部 本部長

【ブランデッド・コミュニケーション部門 審査委員 20名】

(敬称略、五十音順)

■審査委員長

菅野 薫 電通、Dentsu Lab Tokyo／エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター

<審査委員長 講評>

昨年新設した「ブランデッド・コミュニケーション」部門の2年目。今年応募されたプロジェクトもレベルが高く、昨年の審査結果を受けてかより精度が高くなった印象でした。この部門が目指しているのは、ブランドに貢献する全てのアイデアを評価対象とすること。カテゴリーの定義におさまらないアイデアも、審査委員が評価すべきと判断すればなんとか褒める方法がないか議論する、必要があればカテゴリーを移設してでもより高い評価を残せるようにする。また昨年、審査会で意見を交換するとかかなり評価が上下するということがわかりました。そのため今年は、事前のオンライン審査での評価の数字と混濁をしないようにブロンズ以上の評価のプロジェクトは、審査会において全て議論する対象とし、その議論を踏まえて、審査委員全員で再度投票しなおすというシステムを採用しました。

そのため、そもそも審査時間が長かった昨年の遥かに凌駕する審査時間となり、今年の審査委員の方々には大変な負荷を与えてしまいましたが、皆様ずっと前向きに積極的に議論に参加してくださって、大変意義深い審査会となりました。審査委員の皆様には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

昨年も申し上げましたが、贈賞の順位に絶対の正解はありません。それぞれの人に、それぞれの価値観での順位がある。全てのプロジェクトに比べられない価値と意味があると思っています。今回の結果で、新しいアイデアや新しい才能が発見され、何が良い仕事なのか、何が今我々に求められている能力なのか考えるきっかけになれば嬉しいです。

■審査委員

石下 佳奈子 博報堂／コピーライター、ディレクター
井上 佳那子 TOW／プランナー
イム ジョンホ mount／代表取締役、Art director
上西 祐理 電通／アートディレクター、グラフィックデザイナー
えぐち りか 電通／アートディレクター、アーティスト
大八木 翼 SIX／クリエイティブディレクター、共同執行責任者
尾上 永晃 電通／プランナー
栗林 和明 CHOCOLATE／取締役、Chief Content Officer
小杉 幸一 onehappy／クリエイティブディレクター、アートディレクター
佐々木 康晴 電通／第4CR プランニング局長、デジタル・クリエイティブ・センター長、エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター
嶋 浩一郎 博報堂 執行役員 兼 博報堂ケトル代表取締役社長 クリエイティブディレクター
関戸 貴美子 電通／アートディレクター
東畑 幸多 電通／エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター、CMプランナー
永松 綾子 博報堂／アートディレクター
橋田 和明 HASHI／クリエイティブディレクター
八木 義博 電通／CDC クリエイティブディレクター、アートディレクター
保持 壮太郎 電通 CDC、Dentsu Lab Tokyo／コピーライター、プランナー
米澤 香子 電通、Dentsu Lab Tokyo／Creative Technologist
レイ・イナモト I & Co／Founding Partner

【メディアクリエイティブ部門 審査委員 14名】

(敬称略、五十音順)

■審査委員長

箭内道彦 クリエイティブディレクター／東京藝術大学学長特別補佐・美術学部デザイン科教授

<審査委員長 講評>

その矜持を世に問われるメディアの現在を救うアイデアに出逢うべく、多様な発信の最前線から審査委員を招聘した。それぞれが何を基準と理想にどう選ぶのか、各自の表明から始まった会。高い点を付けた審査委員と低い点に留めた審査委員、その両者の見解を常に並列し、深く濃い議論を重ねた。応募作全体のレベルの高さへの言及が多出したことは、この時代に必要な志としての「メディア・クリエイティブ」というジャンルと概念の浸透を象徴していた。グランプリのRCCテレビ『リリドラ』には、ネットだけではないリアルが「動く」愛とカタルシスがあった。最後まで競り合った『君の名は。』。表裏を透かす新聞広告、提供クレジットでの企業ロゴスワップ、名作映画を改めて現在形にした。

■審査委員

- 大澤 あつみ トヨタ自動車／第一国内販売部 主任
- 太田 雄貴 国際フェンシング連盟 副会長／日本フェンシング協会 会長
- 岡 慎太郎 NTTドコモ／広報部 広報担当部長
- 鯉淵 友康 日本テレビ放送網／人事局 人事部長 兼 キャリアサポート部長
- 坂井 佳奈子 ハースト婦人画報社／
インターナショナルメディアグループ エル コンテンツ部 総編集長、エル・ジャポン 編集長
- 佐久間 宣行 テレビ東京／プロデューサー
- 嶋田 三四郎 博報堂DYメディアパートナーズ／エグゼクティブマネージャー、プロデューサー
- 武田 隆 グーグル／執行役員、クリエイティブソリューション & パートナースhip
- 中谷 弥生 TBS テレビ／メディアビジネス局長
- 平池 綾子 資生堂ジャパン／メディア統括部 メディアバイインググループ グループマネージャー
- 村本 美知 ADK マーケティング・ソリューションズ／エクスペリエンス・デザインセンター
センター長補佐 兼 EXソリューションユニット長
- 森田 太 TOKYO FM／執行役員 編成制作局長 兼 グランド・ロック 代表取締役
- 湯川 昌明 電通／2020 プロデュースセンター MD

【クリエイティブイノベーション部門 審査委員 15名】

(敬称略、五十音順)

■審査委員長

暦本 純一 東京大学 教授／ソニーコンピュータサイエンス研究所 副所長

<審査委員長 講評>

各賞を受賞された皆様、ファイナリストの皆様、誠におめでとうございます。
 今回の応募も素晴らしい作品が大変多く、最終審査も難航しました。全体としては、AIのようなハイテクなテクノロジーも、単に使ってみましたのレベルではなく、きちんと現実の課題に向き合い、解決策となっている点、利用のしかたがどんどん自然になってきた傾向を感じました。技術によって私たちが普段から思っている問題をどう解決するのか、ひいては社会や皆さんの生活をどう幸せにしていこうかということに対して非常に真剣に取り組んでいる応募が多くありました。テクノロジーと身近な課題というものが結びついて、あるいはそれを社会の中で継続できるような事業として続けようという意思があるということが今回のポイントだったと思います。

グランプリの「やさいバス」は、流通という見落としがちなところを非常に綿密に見ていて、技術と人間がしっかり組み合わさって運営されているところに感銘を受けました。テクノロジーとイノベーションといっても技術だけつくればいいという問題ではなくて、裏を支える人間や、誰が必要としているかといった非常にきめの細かいところまで含めていかないと本当に社会に根付くようなサービスにはなりません。

プレゼンテーションでは、ロボットが野菜を収穫するというファーストワンマイルのお話もあり、収穫や流通という一番上流にロボットやAIが入ってくるとどうなるか、未来の展望が見えたところも評価され、グランプリとさせていただきます。

■審査委員

- 安宅 和人 慶應義塾大学 教授／ヤフー チーフストラテジーオフィサー (CSO)
 池澤 あやか 東宝芸能／タレント、エンジニア
 稲田 雅彦 DNX Ventures／Investment Vice President
 井上 裕太 quantum／global CEO、最高投資責任者
 佐々木 康晴 電通／第4CR プランニング局長、デジタル・クリエイティブ・センター長、
 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター
 鈴木 雅穂 トヨタ自動車／コネクティッドカンパニー ITS・コネクティッド統括部 総括・企画室 室長
 西村 真里子 HEART CATCH／代表取締役 プロデューサー
 野添 剛士 SIX／代表取締役社長、クリエイティブディレクター
 深田 昌則 パナソニック アプライアンス社／Game Changer Catapult 代表
 朴 正義 バスキュール／代表取締役、クリエイティブディレクター
 森岡 東洋志 ワントゥーテン／チーフマネージャ、テクニカルディレクター
 盛島 真由 Beyond Next Ventures／執行役員
 矢澤 麻里子 Plug and Play Japan／Chief Operating Officer (※2019年8月現在)
 米澤 香子 電通、Dentsu Lab Tokyo／Creative Technologist

以上